

# 「人間力」育成を目指した、基礎ゼミ「初年次教育」の活動報告

三國 信夫

## 1. はじめに

本稿は、2021年度に実践された短期大学ゼミナール（1年生の「基礎ゼミ」）における「初年次教育」の教育活動を報告するものである。

特に、2020年度城西短期大学紀要における「城西短期大学『基礎ゼミ』への提案」<sup>1</sup>が、本年度の基礎ゼミにおいて、どのように導入することができたか、また、その提案の1年間の実践を通してどのような課題が見えてきたのかについて検討したい。

さらには、学生アンケートや社会人基礎力診断テストの結果から、短期大学のディプロマポリシーにある「人間力」が、初年次教育を通してどのように獲得されたのか（あるいは獲得されなかったのか）、検証したい。

### 【本稿の構成】

- ・「基礎ゼミ」への「提案」に、どのように応えることができたか。
- ・「基礎ゼミ」でディプロマポリシーに掲げた「人間力」は獲得されたか。

## 2. 「城西短期大学『基礎ゼミ』への提案」とその対応

### （1）城西短期大学における初年次教育充実の必要性についての指摘

前掲研究によると、初年次教育の実践及び学術研究の10年以上にわたる蓄積があるにもかかわらず、城西短期大学で初年次教育の有機的な実践が行われてこなかった理由として、①初年次教育に関する学術的な背景に対する理解が不十分で、そのため学内での初年次教育に関する有機的な連携がしづらかったからではないか、②2年間という限られた在学期間のため初年次教育を重視する発想が存在しがたかったのではないかと指摘されている<sup>2</sup>。

城西短期大学における初年次教育の歴史や変遷に関しては、その取り組みや試み等の実践について、今後調査・研究する必要があるかと思われるが、たしかに①で指摘される「学内で

<sup>1</sup> 草野素雄・蓼沼康子・栗田るみ子・柴沼真（2021）. 多様性に対応した城西短期大学の特色ある教育に関する研究 第一報 城西短期大学紀要, 38 (1), 1-12. 以下本文中、「前掲研究」といえばこの研究を指す。

<sup>2</sup> 同書, 5.

の有機的な連携」に関しては現在十分とは言いがたい。個々の教員による授業内容の充実への努力は当然としても、それぞれの経験やアイデア等を共有する発想も機会も残念ながら乏しかったと言える。その点は短大内のFD研修会の活用や、プラットフォームを活用した情報共有をする必要があるだろうし、そもそもその情報共有の必要性をまず教員間で共有することが大切になってこよう。

②の点は、入学した年度の後期からはキャリア教育が始まることから、最初の1年間の教育が「初年次教育」として認識され重視されることが（少なくとも4年制大学と比べると）少ないと言えよう。ただ、高大のスムーズな接続という観点も有する初年次教育の重要性に鑑みれば、また、短期大学卒業生の多くが4年制大学へ編入していることも考えれば、短期大学においてもやはり初年次教育を重視して取り組む必要があると思われる。

そこで、前掲研究に挙げられた短期大学における初年次教育への具体的な提案の重要性を認識した上で、そうした提案に対応するように実践された本年度の基礎ゼミナールにおける授業について説明していきたい。

## （2）短期大学における初年次教育に対する「7つの提案」

前掲研究によれば、高等教育への適応を目的として捉えた初年次教育の内容としては、アカデミックスキルとステューデントスキルがあり、それらを達成させるためには、学生たち自身が学習する環境を組織化すること、すなわち Learning Community へ参画することが重要になるという。少人数でなおかつ双方向的なアクティブラーニングという授業手法が可能な科目の方が、上記のような初年次教育を実践する場として相応しいといえ、城西短期大学においては「基礎ゼミ」（A Bでそれぞれ半期2単位）がそれに該当するとする。そして以下の表にあるような、具体的な7つの提言が掲げられている<sup>3</sup>。

表1 「基礎ゼミ」への7つの提案

城西短期大学「基礎ゼミ」への提案
① 建学の精神の学習とキャンパスの理解
② 短期大学と高校生との違いの理解
③ 時間管理方法の習得
④ コミュニケーションスキルの習得
⑤ プレゼンテーションスキルの習得
⑥ キャリア教育
⑦ ①～⑥をふまえ、実社会について実社会を通して学ぶこと

<sup>3</sup> 草野ら前掲書5-8頁に、それぞれ7項目の提案理由について詳述されている。

以上の提言を実際の「基礎ゼミ」の授業においてどのように落とし込めるか、実践できるかが今年度の試みであり、本稿ではその試みを①から⑦までの順番で、以下に振り返ってみたい。

### 3. 2021年度「基礎ゼミ」授業報告

#### (1) 前期授業内容概説

提案との対応関係を見る前に、まず、前期（基礎ゼミ A）において実施された授業内容を振り返ってみたい。授業内容とともに、右欄にある「前」は「前に踏み出す力」、「考」は「考える力」、「協」は「協力する力」を表しており（これらは後述するディプロマポリシーにある「人間力」を構成する3要素である）、その回の授業がどの力を養成することを主眼にしているかを示している。なお、15回目の授業は、著者の体調不良により休講となった。

【キャンパス探訪ゲーム】では、まだ知らない者同士が2-3人でグループを形成し、簡単な自己紹介やお互いの呼び名を確認し、よく知らないキャンパスを制限時間内（60分）歩き（走り）回って目的物を探すというイベントであった。スタート時にはぎこちない様子であったメンバー間の関係も、ゴール時にはすっかり打ち解けている場合も多く見られた。【インタビュー課題】は、ペアワークでインタビューを実施した。複数のテーマごとにメンバーを入れ替え、最終的には全員と向き合って話してもらった機会を作った。インタビューの結果はPower Pointなどの形式にして、それを後日発表等を通して全員で共有した。【キャンパス案内動画（個人）】と【キャンパス案内動画（グループ）】は、スマートフォンを利用して動画編集に取り組んでもらった。また、【キャンパス探訪ゲーム】に続き、キャンパス内を歩き周り、自分たちの学習環境を広く認識してもらうことも目的とした。個人で作品を作る経験をした後、グループでの共同作業を経験してもらい、特に「協力する力」を成長させることを狙いとした。

表2 基礎ゼミナール A の授業内容（1年生前期）

回	授業日	授業内容	前	考	協
1	4月09日	教員自己紹介、履修登録方法の説明、自己紹介	○		
2	4月16日	【キャンパス探訪ゲーム】	○		◎
3	4月23日	【インタビュー課題】 「他己紹介」	○		◎
4	4月30日	【インタビュー課題】 「高校までの楽しかったこと」	○		◎
5	5月07日	【インタビュー課題】 「将来のこと」	○		◎
6	5月14日	【キャンパス案内動画（個人）】 「私のお気に入りの場所」	◎	○	
7	5月21日	キャリアガイダンス		◎	
8	5月28日	【キャンパス案内動画（個人）】 発表・鑑賞会、お互いの感想の発表	◎		○
9	6月04日	【インタビュー課題】 「それぞれのライフストーリー①」	○		◎
10	6月11日	【インタビュー課題】 「それぞれのライフストーリー②」	○		◎

回	授業日	授業内容	前	考	協
11	6月18日	【キャンパス案内動画（グループ）】		○	◎
12	6月25日	【キャンパス案内動画（グループ）】		○	◎
13	7月02日	【キャンパス案内動画（グループ）】	○		◎
14	7月09日	【キャンパス案内動画（グループ）】		○	◎

ディプロマポリシーの「人間力」における、前：前に踏み出す力、考：考える力、協：協力する力、◎：最重視、○：重視

## （２）前期授業の具体的内容

### 【キャンパス探訪ゲーム】

これは、アイスブレイキングゲームの一つであり、毎年実践されている三國ゼミナールのオリジナルゲームである<sup>4</sup>。基礎ゼミメンバーの3-4人が1グループを作り、A4・1枚のシートに印刷されたキャンパス内に点在する目的物の前でメンバー全員が1枚の写真に収まり、全ての目的物との写真を撮って早くゴールしたチームが勝利するというゲームである。

メンバーは、まずシートに掲載された目的物を見て、全員で話し合い、おおよその場所の見当をつけてからキャンパス内を散策する。教室内で向き合う形でのアクティビティと異なり、共に同じ方向を見て歩きながら会話できること

もあり、対人関係を苦手とする学生にとってもコミュニケーションをとりやすい活動となっている。

このゲームを始めた当初は、目的物の写真だけを撮影すればよかったが、グループのメンバー同士の親睦をより深めるために、最近では目的物と共に全員が必ず一枚の写真に収まらなければいけないというルールを課すようにしたが、そうすることにより、お互いが近づいて写真に収まるように声を掛け合うなど、グループメンバー間で一層のコミュニケーションが促進されたようである。



図1 キャンパス探訪ゲームシート



図2 目的物を前に撮影する学生

<sup>4</sup> 学年全体で実施する等の工夫が、今後は必要となつてこよう。

### 【インタビュー課題】

インタビュー課題は、テーマを変えて、前期だけで5回実施した。基本的には2人1組で向かい合う形になり、特定のテーマについてお互いにインタビューをし、その内容をインタビュー相手になり切った1人称で書く文章やPower Pointの資料として作成した。

入学直後でまだ学内に友人関係もできていない場合が多く、そうかと言って自分から声をかけて友人を作っていくことを苦手としている学生も多い。そこで、基礎ゼミではメンバーを入れ替えながら相互インタビューを多く実施し、お互いをよく知ることによってゼミナール内での心理的安全性を確保し、その後のグループワークによる共同作業への下準備を行うこととした。

また、インタビューも終わればそのままというのではなく、Power Pointや文書のように必ずその成果をまとめさせ、さらにはその成果物を全員の前で発表してもらおうようにした。どんな活動も常に発表があることから、発表を意識してインタビューを実施するという好循環が生まれるようになった。

さらには、特にPower Pointの資料では、マスクがない表情の写真を掲載してもらうことで、お互いの顔を認識してもらうという狙いもあった。写真は本人が一番気に入っているものを提供してもらうようにした。

### 【キャンパス案内動画（個人）】

在学期間が2年間しかない短大生にとって、広大なキャンパスによく知らない場所をたくさん残して卒業を迎えてしまうことが残念ながら多い。そこで、キャンパスを探索しながら自分

#### 『Aさんのストーリー』

(名前) B

城西短期大学を決めた最も大きい理由は、他の大学にはないカリキュラム制で9種類のユニットからなっていて、将来なりたい自分に合わせて組み合わせることができる所や将来の選択肢を広げられるところに魅力を感じたからです。そして1番頑張っていきたいことは2つあります。1つ目は英語に力を入れることです。理由は、世界中の人達とコミュニケーションを取りたいと思ったからです。なのでマレーシアの短期留学などに積極的に参加して、色んな方達と交流を深めたり、今までの英語力をよりスキルアップしたいと思います。2つ目は資格を取ることです。特に秘書検定に興味があるので、これから資格が取れるように頑張っていきたいと思います。将来はこの短期大学でビジネススキルや人間力を身につけ社会で活躍出来る人になりたいと思います。

図3 インタビュー課題「将来のこと」

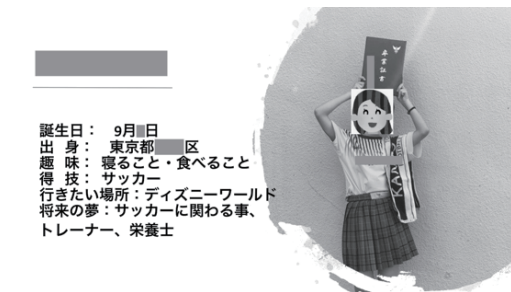


図4 インタビュー課題「他己紹介」

のお気に入りの場所（居場所）を見つけてそれを他のメンバーに紹介しようというのがこの企画である。個人の作品を残すのが目的であるが、撮影自体はグループで活動し、自分が被写体になる際には他のグループメンバーにカメラ撮影を頼むなど、「協力する力」も意識してもらった。

動画撮影と編集作業も初体験である学生が多いため、基本的な作業については事前にレクチャーを実施した。また、動画の中には自分の声でナレーションをつけて、また字幕を付けることも要求した。動画作成を得意とする学生も不得意とする学生もいたが、作成しながら学び続け、最後には全員がそれなりの作品を残すことができた。

アクティビティの最後では教室の大画面で鑑賞会を行い、感想を述べあった。キャンパスの魅力 راゼミ生みんなて共有することですることができた。



図5（左）と図6（右） キャンパス案内動画（個人）「私のお気に入りの場所」

### 【キャンパス案内動画（グループ）】

動画作成までの一連の流れは、「キャンパス案内動画（個人）」と同じである。この2つの活動の違いは、それを個人で作るかグループで作るか、であった。

2-3人のグループで、まずはキャンパス内を歩き回り、動画のテーマに取り上げる場所を探した。キャンパスの外に出て、新しくできたサッカー場や川角駅周辺、薬用植物園あたりまで散策するグループもあった。

ナレーションを入れたり字幕を付けたりするのも個人の場合と同様であったが、さらに動画作成の際に要求したのは、インタビューを実施することであった。ゼミ生以外にインタビューする際には、動画やインタビューの目的を相手に告げ、質問内容も事前に準備し、インタビューする人やカメラで撮影する人など役割を分けるなど、やるべきことが多くなる。計画し、実行し、振り返り、また次の計画に生かす、というサ



図7 キャンパス案内動画（グループ）

イクルを経験し、最後には3つの素晴らしい作品が出来上がった。

2回の動画作成を経験したことで、動画撮影や編集作業にも慣れるだけでなく、一つの作品を仕上げるための段取りをある程度覚えることができた。こうしたスキルは、1年生後期のさまざまなアクティビティや、2年生で取り組む卒業制作へ生かされることが期待される。

### (3) 後期授業内容概説

後期（基礎ゼミ B）において実施された授業内容も振り返ってみたい。なお、第1回及び第2回の授業は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を考えて、Zoom によるオンラインリアルタイム授業で実施された。

後期では、就職活動に関するテーマを主に取り扱った。短期大学の在学期間はわずか2年間であり、1年生の終わりには就職活動が始まることから、なるべく早い段階で自分のキャリア形成に関心を持ってもらうために、毎年基礎ゼミにおいてもこうしたテーマを取り扱うことにしている。

【就活トーク】では、ゼミ生同士のコミュニケーションを図ることも大事な目的であるが、同時に、卒業後の自分についても少しずつ言葉にする作業に取り組んでもらった。【アンケート作成】では、今後の課題に取り組む際に一次情報を集める技術を身につけてもらうため、2コマの時間を割いて、Microsoft Forms の使い方を学んだ。【就職活動動画】では、2-3人のグループで将来の仕事（もしくは就職活動）に関するテーマを自由に決めてもらい、そのテーマに沿ってアンケートを作り情報を集め、また関係者へのインタビューを行い、それらを動画にまとめてもらった。【グループ業界研究】では、これも2-3人のグループ（ただしグループは新たに作り直した）で、メンバーの関心のある業界について調べ、Power Point にまとめてもらい、最終日にプレゼンテーションをしてもらった。

表3 基礎ゼミナール B の授業内容（1年生後期）

回	授業日	授業内容	前	考	協
1	09月24日	前期振り返り、夏休み報告会（Zoom によるオンライ授業）	○		
2	10月01日	前年度の先輩の作品鑑賞会（Zoom によるオンライン授業）	○		
3	10月08日	【就活トーク】 就職をテーマに自由に語り合う	○		◎
4	10月15日	【アンケート作成】 Microsoft Forms の使い方を学ぶ		○	
5	10月22日	【アンケート作成】 Microsoft Forms でアンケートを作る		○	
6	11月05日	【就職活動動画】 テーマ決め		○	◎
7	11月12日	【就職活動動画】 アンケート作成		○	◎
8	11月19日	【就職活動動画】 インタビュー実施	○		◎
9	11月26日	【就職活動動画】 撮影・編集作業		○	◎

回	授業日	授業内容	前	考	協
10	12月03日	【就職活動動画】 撮影・編集作業		○	◎
11	12月10日	【就職活動動画】 発表・鑑賞会、お互いの感想の発表	◎		○
12	12月17日	【グループ業界研究】 テーマ決定		○	◎
13	12月24日	【グループ業界研究】 アンケート作成・資料作り		○	◎
14	01月07日	【グループ業界研究】 Power Point 作成		◎	○
15	01月21日	【グループ業界研究】 発表・鑑賞会、お互いの感想の発表	◎		○
ディプロマポリシーの「人間力」における、前：前に踏み出す力、考：考える力、協：協力する力、◎：最重視、○：重視					

#### (4) 後期授業の具体的内容

##### 【就活トーク】

就活トークは、ゼミ生同士がペアになって、卒業後の生活に関して自由に雑談するアクティビティである。「将来の仕事の夢」「就きたい仕事」「就きたくない仕事」「将来の仕事以外の夢」などがテーマになった。そして、その将来の展望に対して、語ったことが漠然とした夢として終わらないように、今後のプランと、さらには「今日から始めたいこと」を述べてもらった。そして、対話で得られた情報をそれぞれがPower Point 1枚にまとめて、他己紹介としてプレゼンテーションしてもらい、ゼミ生同士でお互いの将来像を共有した。

##### 君の将来

- ▶ 将来の仕事の夢  
仕事はまだ特に決まっていない
- ▶ 就きたくない仕事  
警察や消防士など デスクワーク
- ▶ 将来の仕事以外の夢  
家庭を持つ  
土日は休みで家族のために時間を使いたい
- ▶ 仕事を決めるまでのプラン  
取れる資格を取りたい  
インターンシップに参加する
- ▶ 今日から始めたいこと  
まずはどんな仕事があるか調べる



図8 就活トークの発表資料

##### 【アンケート作成】

発表資料を作成する際には、一次資料として、アンケートの作成とその結果の提示を求めている。そのため、アンケートを作成する手順（具体的にはMicrosoft Formsの使用法）を説明した後、学生自身にアンケートを作成してもらい、お互いに回答しあって、その結果の集計・提示の方法までを学んだ。

また、アンケートを作成する際には、プライバシー保護や倫理上の配慮も必要であるため、作成に取り組む前にそうした事項について学習する機会を設けた。

##### 【就職活動動画】

就職活動に関して漠然とした不安を抱えている学生は多い。よくわからないことから生じる



不安があるとすれば、少しでも就職活動について知ることによってこの不安を和らげようとする狙いがあるのがこのアクティビティである。およそ1ヶ月かけて、15分の動画にまとめてもらった。

授業ではまず3-4人でグループを作り、それぞれのグループで興味のあるテーマを設定してもらった。自分自身が興味を持っている事項について情報・資料収集をした後、名刺大のカードに各々が調べてみたいことを記入し、それをテーブルに

並べてK J法によって分類し、最終的にグループのテーマを決めた。「就活ハラスメントについて」「就活用語を学ぶ」「短大生の主な就職先」などのテーマが上がった。

【アンケート作成】で学んだ手法を生かしてテーマに関するアンケートを実施しデータを集めたり、キャリアサポートセンターの職員やグループ以外のゼミ生にインタビューをしたりして、完成に近づけていった。動画は役割分担をして編集し、最後に一つの作品にまとめ上げた。

アクティビティの最終回では、動画鑑賞会を開き、お互いが感想を述べあったり、そのテーマについて話し合ったりした。



図9 就職活動動画のワンシーン

- ① 資料収集（記事・論文、他）
- ② テーマ選び
- ③ アンケート作成・実施
- ④ インタビュー
- ⑤ 撮影
- ⑥ 編集（15分）

図10 動画作成の手順

### 【グループ業界研究】

2021年度最後のアクティビティは、就職活動に向けてテーマをさらに具体的にした。2-3人でグループを形成し、メンバーがそれぞれ将来就きたい仕事について語り合い、共通して調べてみたい業界を選定してもらった。「不動産業界」、「スポーツ業界」、「アパレル業界」、「アミューズメント・レジャー業界」が選択された。

1年間基礎ゼミにおいて学んで身につけたスキル、すなわち「動画作成・編集」、「インタビュー」、「アンケート」、「Power Point 作成」のすべてを取り込んだ作品作りに挑戦してもらった。最終的には、Power Point をベースに発表資料を作り、アンケートの結果やインタビューの動画を取り込んだ作品が完成した。

入学直後はぎこちなかったメンバー同士にも、複数のアクティビティや共同制作活動を通して、打ち解けて、お互いに意見も言いやすい関係性ができていたように見えた。最終授業の際には、やはりプレエンタテインメント大会を開催し、お互いの作品を通してさまざまな業界について知識を共有した。



図 11 (左) と図 12 (右) グループ業界研究の発表資料

## 4. 今年度の「基礎ゼミ」は「7つの提案」に応えられたか

今年度の「基礎ゼミ」は、以上の内容で実施された。前述した「7つの提案」を、その授業内容にどれだけ取り込むことができたのかについて、提案ごとに検討したい。

### (1) 「①建学の精神の学習とキャンパスの理解」はできたか

前掲研究によれば、建学の精神を学ぶことは、学生が自らのアイデンティティとロイヤリティを形成する際に大切であり、また、2年間で自分がどのような教育を受けることになるのかについて見通しを持てるようになることに繋がるとする。さらに、キャンパスにどのような施設や機能があるかを知っておくことで、より適切な時により適切な対応ができる学生生活を送れるようになるとする。

#### ゼミナールと「人間力」



図 13 ピクトグラムを使用した「人間力」

建学の精神については入学式等の行事で触れられることはあっても、基礎ゼミの授業内で触れられることはなかった。この点は今後の課題として残っている。もっとも、建学の精神から敷衍されたディプロマポリシーの説明、とりわけ在学中に身に付けておきたい「人間力」についてはほぼ毎回の授業で触れた。口頭のみの場合もあったが、ピクトグラムを利用した図を表示し、その回の授業が3要素のうちどの部分に力点が置かれているのかを説明した。受講生は、建学の精神はともかく、「3つの力」を身に付けることが授業の大事な目標の一つになっていることはよく認識できていたと思われる。

一方のキャンパスについては、特に前期の【キャンパス探訪ゲーム】、【キャンパス案内動画(個人)】、【キャンパス案内動画(グループ)】というアクティビティを通して、どのよう

な施設がキャンパス内に存在し、どのような空間があり、必要に応じてどこに行けば良いのか、学生は認識が持てたように思われる。とりわけ入学直後の時期にこうしたアクティビティを実施できたことは評価されよう。もっとも、今後は、より具体的な機能を知るためのアクティビティ<sup>5</sup>が必要となるかもしれない。

## （２）「②短期大学と高校生との違いの理解」はできたか

高校で学ぶ姿勢と短期大学で学ぶ姿勢との違い、生涯年収の違い、社会的評価の違いを学ぶことで、短期大学における学習に対するモチベーションを高めることができ、また、主体的な学習への意識付けができる、と前掲研究は述べる。

基礎ゼミにおいて、こうした中等教育と高等教育の差異に焦点を絞って学ぶ機会を設けるこ

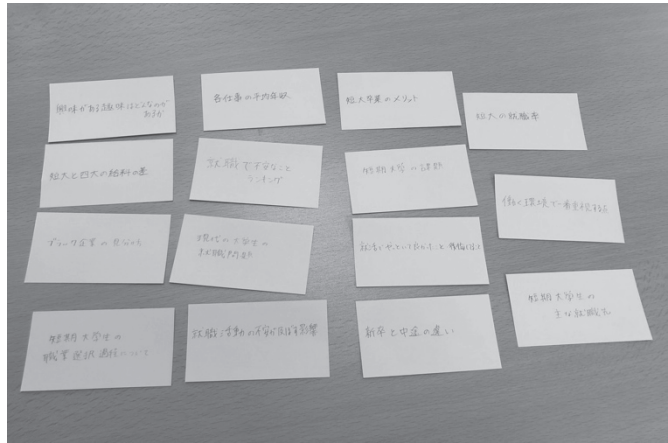


図 14 他教育機関との比較を取り上げるグループの資料

とができなかった。学びを進めるなかで、高校までとの学びの違いを学生に気づいてもらいたかったというのが正直なところであるが、やはり改めてそうした差異を学ぶ機会を設けるべきだったと反省している。もっとも、後期【就職活動動画（グループ）】において、短期大学卒業生の主な就職先を調べたグループでは、短期大学と、高校または4年制大学との就職先との違いに触れていた。自らのアイデンティティを省みるなかで、自分の置かれた環境（短大生であること）に関心を抱き、他の環境（高校や4年制大学等）と自発的に比較するように仕向ける仕掛けも有効なのかもしれない。今後の工夫が必要となろう。

## （３）「③時間管理方法の習得」はできたか

高校までとは異なり、短期大学では「主体的」に時間を管理し生活することが求められる。2年間という限られた学生生活を充実させるには、時間管理の概念や方法の習得が大切であると前掲研究は述べている。

この点に関しては、課題を行う際に、必ず「作業ログ」を残してもらうようにして、時間管

<sup>5</sup> 例えば、「授業中に具合が悪くなりました。どこに行けば良いでしょうか?」「周囲から嫌がらせを受けました。相談窓口はどこでしょうか?」などの、より具体的な場面を想定したキャンパスゲームなどの開発が期待される。

理・スケジュール管理がタスク遂行には非常に重要であることを繰り返して伝えることができた（学生の身に付いたかどうかは定かでないが）。

この後は、さらに日々のスケジュール管理、特に就職活動に向けた時間管理の必要性和実践の機会を設けていくことが大事になる。

- ・ 11月5日3つのテーマについてインターネットで詳しく調べた。
- ・ 11月12日 ここ10年での就職の変化を聞きに行く。
- ・ 11月19日 アンケートを完成させる。（福森さんがいらっしゃったら短期大学生の主な就職先をききに行く。）
- ・ 11月26日 素材撮りする。福森さんにききに行く。
- ・ 12月3日までにやっておくこと インタビュー、アフレコ、動画作成

図 15 簡単な作業ログを義務付けた

（４）「④コミュニケーションスキル、及び、⑤プレゼンテーションスキルの習得」はできたか  
両者は必須のアカデミックスキルではあるが、高校までのアクティブラーニング等の学習で既に経験している学生も多いことから、それらをより高度な形で、実社会で通用するレベルまで習得することで他の科目の学習効果へも期待されると前掲研究は述べている。

この点に関しては、今年度も「協力する力」を重視してきたこともあり、グループ活動を多く経験したことによりコミュニケーションスキルについては効果が期待できよう。一方のプレゼンテーションスキルも、Power Point の制作であれ動画の制作であれ、全ての活動において最後はプレゼンテーションを実施しており、どの学生も1年間で少なくとも5回は経験をできたと考えられる。今後は、スキルに特化した学習の機会を設けて、全員が実社会でも通用するレベルのスキルを身に付けられるようなカリキュラムの構築を検討していきたい。

#### （５）「⑥キャリア教育」はできたか

前掲研究によれば、2年間しかない短大生にとっては、初年次教育においてもキャリア教育を始めることが重要であり、また、それもよりリアルなキャリア教育を行うことが大事であるとする。キャリア教育を受けることで「なぜ？何を？どのように？短期大学で学ぶのか」という内容が明確になり、学習成果の質向上に繋がるという。

この点に関しては、後期の授業全てがキャリア教育に繋がっていたと考えられる。【就活トーク】に始まり、【就職活動動画】、【グループ業界研究】を通して、ぼんやりとした将来像を語ることから、最後には具体的な業界研究までを経験することができた。また、特に動画を制作する過程で、就職活動を経験した先輩や既に働いている社会人にインタビューする機会もあり、web上の情報に触れるだけでなくリアルな学びを体験できたと考えられる。

今後は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くことが前提であるが、OBやOGの職場を訪ねたり、あるいは彼ら彼女らを教室に招いたりするなど、より一層リアルなキャリア教育を考えていきたい。

(6) 「⑦①-⑥をふまえ、実社会について実社会を通して学ぶこと」はできたか

教室での単なる講義ではなく、リアリティがある文脈において、Learning Community を通じて学生たちが主体的に学んでいくことが大切であると前掲研究は述べている。

この点に関しては、教室内にとどまらず、時にはキャンパスを歩いたり、出会う人にインタビューをしたり、といったリアリティを求めることは実行してきた。しかし、やはり、まだまだ改善改良の余地が多いと自覚している。可能であれば、キャンパスの外、例えば坂戸市街の店舗等にまで足を運び、よりリアルな学びの場を築きたいと考えている。

以上をまとめると、下表ようになる。

表4 「提案」と「実践」の対応表

城西短期大学「基礎ゼミ」への提案	提案に対応して実践された授業内容	評価
① 建学の精神の学習とキャンパスの理解	ピクトグラム提示、キャンパス探検、動画制作	○
② 短期大学と高校生との違いの理解	キャリア教育の過程で一部学ぶ	△
③ 時間管理方法の習得	作業ログの義務付け	○
④ コミュニケーションスキルの習得	グループワークの多用	◎
⑤ プレゼンテーションスキルの習得	課題ごとのプレゼンテーション	○
⑥ キャリア教育	就職活動動画、業界研究等の課題	◎
⑦ ①-⑥をふまえ、実社会について実社会を通して学ぶこと	座学ではない学び、教室の外での学び、社会人へのインタビュー	△
自己評価は、◎：よくできました、○：一部できました、△：がんばろう		

5. 予想された「課題」と、その課題に対する今後の「対応」

(1) 予想された「課題」

前掲研究では、「提案」を実施することで浮かび上がってくることが予想される課題が3つ挙げられている。

1つ目は、全学生が共通の内容を経験する工夫が必要であろうとする点である。短期大学の学生は、入学時に名簿順で基礎ゼミのクラスを振り分けられる。どの教員がその基礎ゼミを担当するかによって、基礎ゼミで学習する内容が大きく違ってくのは好ましくない。そこで、初年次教育を充実させる努力を進める一方で、その努力の成果が全クラスに反映されて、結果として全学生が身に付けられる内容に大きな差が生じることをなくすることが大切となるだろう。そのためにも、教員同士の情報共有や研修などのコミュニケーションが大切になってくることが指摘されている。

2つ目は、他のカリキュラム上の科目との連携を図ることが必要になるだろうとする点である。基礎ゼミで身に付けた学びや技法を、他の科目を受講したい際にも存分に生かせるように

する必要があるというものだ。

3つ目は、学習成果の可視化である。基礎ゼミを通して、「何を・いつ・どこで・どのように・なぜ、そして誰と学んだことにより学習できたのか」という点を可視化（ポートフォリオ化）することで、学生の自己肯定感の獲得や向上にもつながると指摘される。

## （2）今後の「対応」

では、実際に2021年度に「提案」に向き合いながら授業を実践した上で、予想された「課題」と向き合うとそこに何が問題として新たに浮かび上がってくるだろうか。

1つ目の「全学生が共通の内容を経験する工夫」については、早急に取り組むべき課題だといえよう。教員による学習内容の違いはある程度はあるものだが、それが大きくなるようでは学生の間にも不公平感や不満が生じる可能性がある。また、そもそも教員が一人で悩むより、全教員でアイデアを出し合って授業を改善していく方が効率も良いし、何より教員にとっても楽しい経験となるであろう。そうした点でも、次年度から教員間のコミュニケーションを図る工夫をしたいと考えている。研修のあり方も考えるべきであろう。

### 2つ目の「他のカリキュラム上の科目との連携」

も、これから検討すべき課題であると納得できる。1年生が全員学ぶ基礎ゼミだからこそ、そこで得られた学びが短期大学の他のどの科目を学ぶ上でも役に立ち、学びを深化させるものでなければならないであろう。一つの試みとして、筆者が担当する後期科

地域連携と「人間力」



図16 ピクトグラムを使用した「人間力」

目「地域連携Ⅱ」においては、基礎ゼミで取り組んだように「人間力」のピクトグラム図を毎回提示して、その日の授業での活動がどの力と関わってくるのかを学生が意識するように促していた。これも、ここでいう「連携」の一つの形であるかもしれない。ここでもやはり、教員間のコミュニケーションが重要になってくることには変わりはないであろう。

3つ目の「学習成果の可視化」は、上記2つの課題以上に、実行への工夫や教員間のコンセンサスが必要となってくるであろう。ただ、例えば美術系の大学ではよく見られるように、卒業論文であれ卒業制作であれ、「卒業作品展示会」などのイベントを開催することによって学習内容の「可視化」を一部達成できるかもしれない。いずれにせよ、今後具体的な運用に向けて工夫が必要となつてこよう。

以上をまとめると、下表のようになる。いずれにせよ、これからがスタートである。

表5 「提案」と「実践」の対応表

「提案」を実施した際に予想された「課題」	「課題」に対する今後の「対応」
① 全学生が共通の内容を経験する工夫	教員間のコミュニケーション、研修会
② 他のカリキュラム上の科目との連携	教員間のコミュニケーション
③ 学習成果の可視化	卒業作品展示会？

## 6. 「基礎ゼミ」で「人間力」は身に付いたか

### (1) ディプロマポリシー「人間力」と初年次教育

本稿の2つ目のテーマである、初年次教育を通じて達成される「人間力」の学びについて考えたい。

城西短期大学には、短期大学のディプロマポリシーと、マネジメント総合学科のディプロマポリシーとの2つが存在する。その双方において記載され、また、オープンキャンパス等での対外的な場面でも城西短期大学の教育目標として語られるのが、「(自立した社会人として求められる)人間力」である。毎年発行されている、受験生向けのパンフレットにおいても「人間力」が図として掲載されている。

表6 城西短期大学全体のディプロマポリシー (学位授与の方針)

城西短期大学は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、社会の発展に貢献できる「人間力」をもった人材を育成します。本学は、以下の能力を修得し、学科の学位授与方針を満たした人に、短期大学士の学位を授与します。

- ① 広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力
- ② 社会人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、表現力や道徳的能力
- ③ 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力

表7 ビジネス総合学科のディプロマポリシー (学位授与の方針)

ビジネス総合学科は、「自立した社会人として求められる人間力」を基本的学習成果と定めています。「人間力」とは、具体的には1前に踏み出す力、2考える力、3協力する力です。また本学科は、専門的学習成果を「職業人として活躍できる幅広い教養と、英語、情報、メディア、会計、販売・接客、事務処理等のビジネススキル」と定めています。ビジネス総合学科は、学科の所定の単位を修得した人が、以下の能力・態度を身につけていると判断し、短期大学士(ビジネス総合)の学位を授与します。

- ① 社会人として必要とされる基礎能力および態度
- ② ビジネスの世界で働くマインド(集中力、知的関心、積極性、自主性等)
- ③ 組織で働く協調性

この「人間力」とは、2006年に経済産業省により提唱された「社会人基礎力」に対応しており、「人間力」を構成している「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」のそれぞれは、やはり「社会人基礎力」を構成している「前に踏み出す力（Action）」「考え抜く力（Thinking）」「チームで働く力（Team Work）」に対応している。

この「人間力」を培うのがいわば城西短期大学の教育目標であり、2年間という限られた時間でそれを達成するためにも、1年生の初年次教育の段階から「人間力」獲得に取り組む必要があるといえよう。

そこで、基礎ゼミにおいてもこの「人間力」の3つの力を意識した授業内容と授業運用が期待されているのだ。

特に、他科目と異なり、基礎ゼミナールは少人数クラスであるため、3つの力のうち「協力する力」を育成しやすい環境にあると言えるので、筆者の担当するゼミナールでは、昨年度から「協力する力」を中心としたゼミナール運営がされてきた<sup>6</sup>。

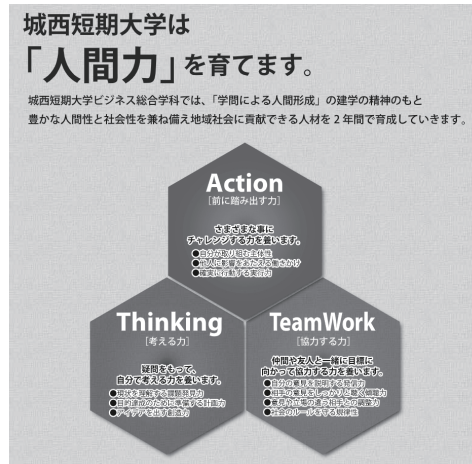


図17 パンフレットに掲載された「人間力」

## （2）効果検証の必要性

「人間力」獲得を目指した授業内容を準備し、それを実践することは、授業に求められるいくつかの段階の最初の一步を踏み出したに過ぎない。授業を終えて、学生にどのような変化がどれだけあったのかを検証し、場合によっては学習内容を見直したり計画を組み直したりして、次の授業に備えることが大切なのだ。このサイクルを回すためにも、教員の独りよがりの感想や職人的な手応えだけでなく、しっかりとした「検証」が必要となってくるのだ。その「検証」は、さらに、授業に参加した学生のリアクション（学生アンケート）を集めるだけでなく、客観的な指標に基づいた分析も大切になってくる。ここでは、まずは学生アンケートについて、続いて、社会人基礎力診断に基づく客観的な検証について、見ていきたい。

## （3）学生アンケートの結果

まずは、2021年度授業が終了した際に、受講生に実施したアンケートの結果から見ていきたい。Microsoft Formsによるアンケートには、受講生8名全員が回答してくれた。

「人間力」を構成する「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」のそれぞれが身に付い

<sup>6</sup> 三國信夫（2021）. オンライン方式による基礎ゼミナールの教育実践報告 城西短期大学紀要, 38（1）, 33-50.



たかどろかの設問に対しては、「非常にそう思う」「そう思う」の肯定的な回答が大部分であった。筆者担当の基礎ゼミでは、前述したように、従来、「協力する力」に重点を置いた授業を展開してきたが、その「協力する力」に対して最も肯定的な回答が多かったことは喜ばしい結果である。

表 8 3つの力は身に付いたか

「前に踏み出す力」が身に付いた	「考える力」が身に付いた	「協力する力」が身に付いた
非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
非常にそう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
そう思う	非常にそう思う	非常にそう思う
そう思う	そう思う	非常にそう思う
そう思う	そう思う	そう思う
どちらでもない	そう思う	そう思う
どちらでもない	そう思う	そう思う

次に、「前に踏み出す力」「考える力」「協力する力」として、それぞれ具体的にどのような力が付いたと思うかについてもアンケートを実施した。

「前に踏み出す力」については、教室の前に出て発表することが、文字通りその力を育んだ機会になったようである。また、他人任せにせず、自分ごととして課題に責任を持って取り組むことができたことも、成功体験となっており、自分自身に主体性や積極性の芽生えを感じ取ることができるようになったのかもしれない。

表 9 「前に踏み出す力」は身に付いたか

この授業を通して、どのような「前に踏み出す力」が身に付きましたか？ 具体的に説明してください。
あまり関わりがない人と話し合ったり、インタビューすること 発表するとき率先して発言するとき。
自ら役割をやるようにした
誰かがやってくれるとかではなく、発表するために自分達で原稿などを作らないといけないということ。
初めて動画の編集をして、今までやってみたかった方法やボイスを使ったこと
確実に身についたかは分からないけど、前に立って発表することで、今まで前に立って発表するのは苦手だったが少し慣れてきたからです。
パワーポイントなどで前に出て紹介したり説明したり発表したこと 支持する力

「考える力」については、全ての課題について学生に「発表」を求めていたことから、情報の「受け手」について考えたという感想が多くあった。見やすく、とか、わかりやすく、などがその部分である。課題に取り組む計画段階以上に、発表の段階を意識することで「考える力」を使っていた（鍛えていた）というのは、意外であったが、そうであればこそ次年度以降でも「発表」の要素は常に取り込んでおく必要があるように思われた。

表 10 「考える力」は身に付いたか

この授業を通して、どのような「考える力」が身に付きましたか？ 具体的に説明してください。
どんなことについて調べるか考える力が身につきました みんなと協力して考え方ややり方がそれぞれあって話し合っ て決めることの大切さを知りました。
ど一発表するか考えた パワーポイントを作る際に、自分だけの考えだけでなく、見る人、 聞く人がどのようにしたら分かりやすいか、飽きないかなどを考 えて作る力のついた。
どうすれば内容を分かりやすく相手に伝わるかを考えた。 どうやったら見やすい動画になるかや見やすいパワーポイントを作 れるかを考えることや自分の役割は何をしたらいいか考えたこと で身についたと思います。
課題に対してネットで調べたりしながらパワポにまとめたりした こと どうしたら効率良く物事が進むか

「協力する力」については、前期後期を通してグループワークが多かったことから、役割分担をして一つの作品を仕上げることに慣れ、それぞれ自信も深めていたようであった。誰とでも協力できる、という自信をのぞかせるコメントもあり、頼もしい限りである。

表 11 「協力する力」は身に付いたか

この授業を通して、どのような「協力する力」が身に付きましたか？ 具体的に説明してください。
みんなでひとつのことを作り上げる グループワークで発言するときや資料をまとめる時に協力して作 ることが出来た。
班のみんなと協力してできた パワポ発表に向けて、一人はアンケート収集、一人は資料集めとい うようにそれぞれが分担してそれを最後にまとめていく事で、協 力する力というのが身に付いたと思う。

相手と連絡を取り合い動画やパワーポイントを仕上げたこと
みんなで協力して分担しながら話し合っただけで出来たので身についたと思います。
それぞれの課題に対して違ったメンバーで協力して活動したこと
協力して物事を進める力

さらに、授業全体を振り返ってもらくと、以下のような回答を得ることができた。「ない」という寂しい感想もあるが、一方で、「人前で話す」「人と協力をする」ことが苦手だったけど、慣れてきた（楽しくなってきた）という学生の成長を感じる回答もあった。

表 12 授業を通して自分に起きた変化、学び、メッセージなど

この授業を通して、自分に起きた変化、学んだこと、メッセージがあれば書いてください！
1年間ありがとうございました！
2年生もよろしくお願ひします
発言するのが楽しくなりました。
ない
この先、社会に出た時に職種にもよると思うけれどパワポなど動画作成を行うことがあるかもしれないので、少し経験になった。
今年は就活をしなきゃいけないので、分からないことだらけだけど頑張っていこうと思います。
初めは他の人と協力するのが怖かったけど、同じ目標を達成するためにちゃんと協力できたのが嬉しかったです
人前に立つのはあまり得意ではなかったが、少し慣れてきたと思います。
1年間ありがとうございました
動画作成に慣れた

以上のように、学生アンケートからは、肯定的な回答が多く見られたが（それ自体は嬉しいことであるが）、ただ、本人の主観的な認識と客観的な成長・変化は分けて考える必要がある（本人は成長したと認めていても、客観的にはそうではない場合もありうる）、そのためにも以下のような客観的な指標による診断が大切となってくると考えられる。

### （3）「社会人基礎力診断」の結果

「社会人基礎力診断」は、一般社団法人社会人基礎力協議会が監修しているテストであり、社会人基礎力を客観的に計測する指標として活用されている。今年度、筆者が担当する基礎ゼミの学生が、2021年7月（前期の終わり、グラフ横軸）と2022年1月（後期の終わり、グラフ縦軸）の2回受検をし、3つの力にどのくらいの変化があったのかを調べた。

グラフの左下から右上にある斜線上にある点が、2回のテストが同評価であることを示して

おり、その斜線より左（上）側にある点は、1回目より2回目の方が、評価が上がったことを示している。右（下）側の点は、評価が下がったことになる。

「総点散布図」では、左（上）側が5点（5人）、右（下）側が3点（3人）であり、全体では8人中5人に成長が見られたと言える。3つの力では、成長をしたケースが、「前に踏み出す力」では6点（6人）、「考える力」では3点（3人）、「協力する力」では4点（4人）であった。前期後期の授業内容の表にも記載してあるように、筆者の担当する基礎ゼミでは、特に「協力する力」に重点を置いてきたが、8人中4人にしか「協力する力」の成長が見られなかったことは、残念であった。

さらに、グラフからもわかるように、「考える力」はむしろ低下している人数の方が多く（5人）、しかも点数を半減させてしまっている学生もいることから、この診断テストの個別のデータをより精査して、原因を解明し、次年度以降の授業に早急に反映させる必要があるだろう。

もっとも、短期大学の授業において、これだけ客観的な指標で授業を分析したことはなく（少なくとも筆者は）、その点でもこうした分析を今後も活用しながら授業内容を改善していく必要はあるだろうし、また、その作業の際には教員間で情報を共有し、短期大学における全ての授業でこのデータが活かされることが求められると考えられる。

次年度以降に出会う学生たちのためにも、さらなる探求を続けていきたい。

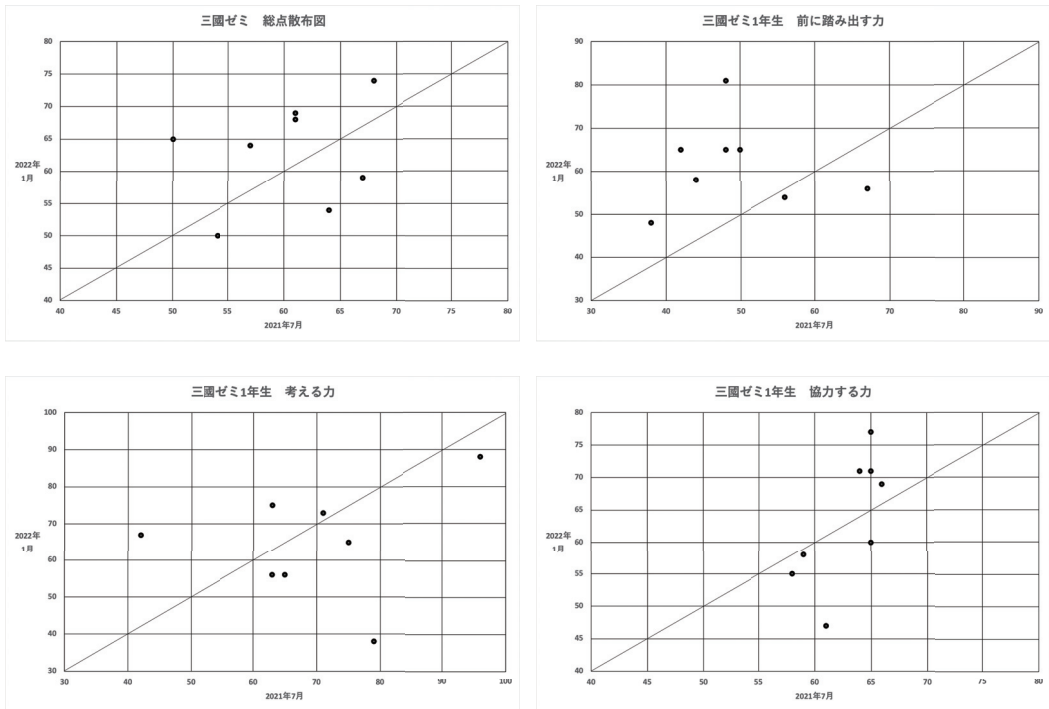


図 18 社会人基礎力診断 散布図